



学生に手伝ってもらいながら粘土の形を整える児童たち—行橋市大橋3丁目

行橋の土で焼き物づくり

小学生向け 彫刻展プレイベント

行橋市で6日、夏休み中の児童クラブに通う小学生が地元の土を使った焼き物づくりに挑んだ。来年の第1回ゆくはし公募彫刻展のプレイベントの一つで、熊本市の崇城大学から芸術学部彫刻コースの勝野真言教授や学生7人も駆けつけ、指導した。

この日は小学生9人が参加し、行橋市稲童の休耕田で焼き物に適した粘土を掘って採取。同市大橋3丁目の行橋保育園旧園舎に戻って作陶に取り組んだ。題材は自由で、ネッシーや猫の親子、コップなど思い思いの形に仕上げた。

迫力ある恐竜ユタラプト

ルを作った行橋小2年の男子生徒(7)は「難しいけど楽しい」と目を輝かせていた。

あと3日、他の児童を対象に実施。全作品は乾燥させた上で野焼きし、地元商店街などで30、31日に展示する予定という。彫刻家でもある勝野教授は「土掘りから取り組めば、子どもたちにも良い思い出になるのでは」と話した。

(久恒勇造)